

55 ヒモイカリナマコツマミガイ (ハナゴウナ科)

*Hypermastus lacteus*

兵庫県ランク:A

環境省ランク:VU

種の概要

相模湾、伊勢湾、瀬戸内海など、関東以西の内湾に分布する。内湾奥部や河口の干潟の干潮時に露出する礫や貝殻混じりの砂泥中に浅く潜行して生活する棘皮動物のヒモイカリナマコ(その他無脊椎動物Bランク)に内部寄生する。寄生数は宿主1個体あたり普通1~2個体が寄生しており、ときに外部に寄生することもある(移動中?)。殻長5mmほどの紡錘形をし、殻頂部は乳頭状に突出する。殻表面は光沢があり、彫刻はない。殻はほぼ透明で、生時は黄色の軟体や内臓が透けて見える。

主要な選定理由

人為性			生息環境の特殊性		学術性		
個体数激減	分布域に影響	営利目的捕獲	特殊生息環境	地域的孤立	分布が極限	分布の限界	希少
			○	○			○

県内分布

高砂市、たつの市、赤穂市、洲本市、淡路市

県内における生息状況及びその他特記事項

新規追加種。加古川以西の河口干潟や内湾において、ヒモイカリナマコは決して珍しくなく、本種の生息地では概ねヒモイカリナマツマミガイが確認できる。淡路島では大阪湾側の中部と北部で確認されており、寄生数は宿主1個体あたり幼貝を含め最大23個体を記録できた。6~7月頃に成貝が多く見られ、この頃が繁殖期と考えられる。

保護上の留意点

多様な底床構造が存在する内湾奥部や河口干潟において、やや海水の影響の強い潮通しのよい場所に生息する。宿主が砂泥底の礫などの下に潜行する傾向があるので、砂泥底に加え岩礫や貝殻の適度な混在が必要である。垂直護岸によって急激に深場としないこと、干潮時に緩傾斜の干潟を維持することで、潮位や流程による底床の変化を存続させること。



写真提供：増田修



写真提供：増田修

【執筆者】 増田修